

平成27年度後期 情報検定

<実施 平成27年12月13日（日）>

1 級

(説明時間 13 : 20 ~ 13 : 30)

(試験時間 13 : 30 ~ 14 : 30)

- ・試験問題は試験開始の合図があるまで開かないでください。
- ・解答用紙（マークシート）への必要事項の記入は、試験開始の合図と同時に行いますので、それまで伏せておいてください。
- ・試験開始の合図の後、次のページを開いてください。＜受験上の注意＞が記載されています。必ず目を通してから解答を始めてください。
- ・試験問題は、すべてマークシート方式です。正解と思われるものを1つ選び、解答欄の○をHBの黒鉛筆でぬりつぶしてください。2つ以上ぬりつぶすと、不正解になります。
- ・辞書、参考書類の使用および筆記用具の貸し借りは一切禁止です。
- ・電卓の使用が認められます。ただし、下記の機種については使用が認められません。

<使用を認めない電卓>

1. 電池式（太陽電池を含む）以外の電卓
2. 文字表示領域が複数行ある電卓（計算状態表示の一行は含まない）
3. プログラムを組み込む機能がある電卓
4. 電卓が主たる機能ではないもの
 - * パソコン（電子メール専用機等を含む）、携帯電話（PHS）、電子手帳、電子メモ、電子辞書、翻訳機能付き電卓、音声応答のある電卓、電卓付腕時計等
5. その他試験監督者が不適切と認めるもの

＜受験上の注意＞

1. この試験問題は15ページあります。ページ数を確認してください。
乱丁等がある場合は、手をあげて試験監督者に合図してください。
※問題を読みやすくするために空白ページを設けている場合があります。
2. 解答用紙（マークシート）に、受験者氏名・受験番号を記入し、受験番号下欄の数字をぬりつぶしてください。正しく記入されていない場合は、採点されませんので十分注意してください。
3. 試験問題についての質問には、一切答えられません。自分で判断して解答してください。
4. 試験中の筆記用具の貸し借りは一切禁止します。筆記用具が破損等により使用不能となった場合は、手をあげて試験監督者に合図してください。
5. 試験を開始してから30分以内は途中退出できません。30分経過後退出する場合は、もう一度、受験番号・マーク・氏名が記載されているか確認して退出してください。なお、試験終了5分前の合図以降は退出できません。試験問題は各自お持ち帰りください。
6. 試験後にお知らせする合否結果（合否通知）、および合格者に交付する「合格証・認定証」はすべて、Webページ（PC、モバイル）での認証によるデジタル「合否通知」、デジタル「合格証・認定証」で行います。
 - ①団体宛には合否結果一覧ほか、試験結果資料一式を送付します。
 - ②合否等の結果についての電話・手紙等でのお問い合わせには、一切応じられませんので、ご了承ください。

問題 1 次のシステム開発に関する各設問に答えよ。

＜設問 1＞ 次のソフトウェア開発に関する記述中の□□□□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

ソフトウェア開発には様々な手法があるが、古くから行われている開発手法にウォーターフォールモデルがある。ウォーターフォールモデルは、ユーザからの要件をもとにシステム要件定義を行い、システム化の対象範囲やシステム機能などを整理して、システム要求定義書としてまとめる。次に、システム要求定義書をもとにシステム設計、プログラミング、テスト、ソフトウェア受け入れと進めて行く。

システム設計は、□□(1)□□の順に進めて行く。初期段階で、そのシステム機能と画面を試作した□□(2)□□を作成し、ユーザが評価することによって、システムの仕様や機能を確定していく手法もある。

プログラムに必要な機能やロジック等の設計後、プログラミングを行う。作成したプログラムに誤りがないかを検証するために、□□(3)□□を行う。

□□(3)□□が済んだプログラムを結合し、ソフトウェアが要求通り動作するかどうか各種テストで検証する。□□(4)□□は、プログラムを構成するモジュールを集めて行うプログラム単位のテストであり、□□(5)□□は、システム全体を稼働させて行うテストである。□□(5)□□は、開発者側から見た最終テストであり、ジョブの連携や性能、負荷、障害回復など、さまざまなテスト項目がある。

ソフトウェア受け入れでは、利用者側が実際の稼働環境で運用して、業務やシステム運用上不都合な点が生じないか□□(6)□□で検証し、問題がなければ受け入れることとなる。

(1) の解答群

- ア. システム方式設計, ソフトウェア方式設計, ソフトウェア詳細
- イ. システム方式設計, ソフトウェア詳細, ソフトウェア方式設計
- ウ. ソフトウェア方式設計, ソフトウェア詳細, システム方式設計
- エ. ソフトウェア詳細, ソフトウェア方式設計, システム方式設計

(2) の解答群

- ア. IPO
- イ. UML
- ウ. スパイラル
- エ. プロトタイプ

(3) ~ (6) の解答群

- ア. 運用テスト
- イ. 結合テスト
- ウ. 総合テスト
- エ. 退行テスト
- オ. 単体テスト
- カ. 負荷テスト

<設問 2 > 次のテストケースに関する記述中の に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

効果的なテストをするためには、テストケースの設計が重要な役割を果たす。プログラムの外部仕様からテストケースを設計する方法にブラックボックステストがある。これは、プログラムの入力仕様をもとにテストケースを作成し、どのような結果が返されるかに着目するものである。ブラックボックステストでよく使われる手法に同値分割と限界値分析がある。

同値分割には、正常に処理されるデータの範囲（有効同値クラス）と異常とみなされるデータの範囲（無効同値クラス）があり、それぞれのクラスから代表的な値を一つずつテストケースとして作成する。

限界値分析では、クラスの境界となる値をテストケースとして作成する。

例えば、“日付の月”のみを検証する場合、同値分割では (7) が、限界値分析では (8) がテストケースとなる。なお、テストデータは最も少ないデータで検証するものとし、整数値以外は入力されないものとする。

(7) , (8) の解答群

ア. (0, 13) イ. (0, 12) ウ. (0, 1, 12, 13) エ. (1, 12)

問題2 次のインタフェースに関する記述中の□□□□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

パソコンの電源を入れると、最初に□□(1)が起動し、その後OSが起動する。
□□(1)のプログラムは、マザーボードのROMに記録されており、キーボードやマウスなど、パソコンに接続された周辺機器を制御するプログラムである。

キーボードやマウスなどの周辺機器とパソコンを接続する代表的なインタフェースとして□□(2)がある。□□(2)は、最大127台まで接続可能なシリアルインタフェースで、接続機器への電源供給も可能である。

また、パソコンの内蔵ハードディスクと接続するためのパラレルインタフェースとして、□□(3)がある。□□(3)を拡張し、転送の高速化やパソコン外部のハードディスクとの接続にも対応したシリアルインタフェースが□□(4)である。

他には、デジタルビデオカメラなどデジタル家電をパソコンに接続するインタフェースとして□□(5)がある。□□(5)は、ディジーチェーン接続により最大63台まで接続可能なシリアルインタフェースで、機器を動作させたままでもコネクタを抜き差しできるホットスワップにも対応している。

さらに、工業分野で利用される測定器をパソコンに接続するインタフェースとして、□□(6)がある。測定器の転送速度は元々低速の機器が多いが、接続された機器の中で最も遅い機器の転送速度に合わせることにより、通信速度の異なる機器間でも接続することができる。

(1) , (2) の解答群

ア. BIOS イ. PCI ウ. SCSI エ. USB

(3) , (4) の解答群

ア. ATA イ. DVI ウ. HDMI エ. SATA

(5) , (6) の解答群

ア. GPIB イ. IEEE1284 ウ. IEEE1394 エ. RS-232C

問題3 次のLANに関する記述を読み、各設問に答えよ。

LAN で用いる通信技術として、インターネットの通信技術を用いたものが多く見られる。このようなネットワークを利用するには、IP アドレス等の設定が必要になる。

<設問1> 次のIPアドレスに関する記述中の□□□□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

IP アドレスは、ネットワーク部とホスト部で構成される。IPv4 では、IP アドレスは32ビットで構成され、アドレスクラスなどによって各部のビット数は異なる。

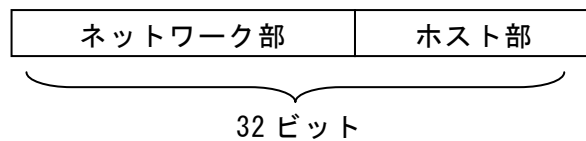


図 IPアドレスの構成

IPv4を用いたIPアドレスでは、IP アドレスとサブネットマスクの□□□□(1)をビットごとに計算して□□□□(2)を算出する。これが一致する機器は、相互に直接通信することができる。例えば、機器AのIPアドレスが「192.168.58.3」、サブネットマスクが「255.255.255.128」であれば、機器Aと同じグループに属するIPアドレスは□□□□(3)である。

なお、ホスト部の値が2進数で全て“0”になる値は□□□□(2)として用いられ、全て“1”になる値は□□□□(4)として用いられるので、ネットワーク機器のIPアドレスとして利用しない。

(1) の解答群

- | | |
|-----------|--------|
| ア. 排他的論理和 | イ. 否定 |
| ウ. 論理積 | エ. 論理和 |

(2) , (4) の解答群

- | | |
|----------------|-----------------|
| ア. MAC アドレス | イ. ブロードキャストアドレス |
| ウ. マルチキャストアドレス | エ. ネットワークアドレス |
| オ. リンクローカルアドレス | カ. ループバックアドレス |

(3) の解答群

- | | |
|-------------------|-------------------|
| ア. 192.168.58.100 | イ. 192.168.58.150 |
| ウ. 192.168.58.200 | エ. 192.168.58.250 |

<設問 2 > 次の IP アドレスの設定に関する記述を読み、記述中の [] に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

ある部署の IP アドレスをクラス C で割り当てた。 [(2)] を「192.168.54.0」とし、サブネットマスクは「255.255.255.0」とした。

通信の効率化を考えて、この部署のネットワークを 3 つにサブネットワーク化することにした。そこで、ホスト部に割り当てられている 8 ビットをサブネットワークの値とホストアドレスの値に分けて設定する。ここでは、ホスト部の先頭 2 ビットをサブネットワークの値として利用することにした。これにより、サブネットマスクは「 [(5)] 」になる。なお、1 つのサブネットワーク内でネットワーク機器の IP アドレスとして利用できるのは [(6)] 種類になる。

(5) の解答群

- ア. 255.255.255.64 イ. 255.255.255.128
 ウ. 255.255.255.192 エ. 255.255.255.224

(6) の解答群

- ア. 30 イ. 32 ウ. 62 エ. 64

<設問 3 > 次の LAN に接続するために使用する機器に関する記述中の [] に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

コンピュータを LAN に接続するために、様々な機器が使われる。次の表は、その機器をまとめたものである。

表 LAN に接続するために使用する機器

名称	特徴
リピータハブ	ケーブルを接続するための集線装置で、あるポートから入力した信号を全てのポートに伝送する。そのため、 [(7)] が発生する確率が高くなる。
スイッチングハブ	リピータハブと同じ集線装置であるが、 [(8)] アドレスによるフィルタリングを行って、必要なポートにのみ信号を伝送する。
ルータ	ネットワーク同士を接続する装置で、 [(9)] アドレスによるフィルタリングを行って適切な経路を選択する。

(7) ~ (9) の解答群

- ア. ARP イ. IP ウ. MAC
 エ. グローバル オ. コリジョン カ. プライベート

問題4 次の記述に関連の深い字句を解答群から選べ。

- (1) 物品の形状、模様、色彩、または、これらの組み合わせで創作したデザインを独占的に利用できる権利。
- (2) 作詞作曲を行った楽曲を本名ではなくニックネーム等を著作者名として発表することを認める権利であり、二次的な利用における著作者名の表示も同様の名称を使用しなければならない。
- (3) 産業上で利用する目的で発明された技術を独占的に利用できる権利。
- (4) 「Apple」や「Windows」のようなロゴマークや製品のトレードマークを独占的に利用できる権利。
- (5) 著作者ではないが、著作物の伝達に関わっている実演家や放送事業者などに認められた権利であり、それぞれの立場でインターネットを用いた送信や複製する権利などが認められている。
- (6) 著作物の内容又は題号を著作者の意思に反してこれらの変更、切除、その他の改変を受けないという権利であり、著作者以外が楽曲の歌詞を勝手に変えることや、デザインを変更するなどしてはいけない。

(1) ～ (6) の解答群

- | | | |
|----------|-----------|----------|
| ア. 意匠権 | イ. 公表権 | ウ. 実用新案権 |
| エ. 氏名表示権 | オ. 商標権 | カ. 著作財産権 |
| キ. 著作隣接権 | ク. 同一性保持権 | ケ. 特許権 |

問題を読みやすくするために、
このページは空白にしてあります。

問題5 次の情報セキュリティに関する各設問に答えよ。

<設問1> 次の認証に関する記述中の□□□□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

認証とは、正当な利用者かどうかを確認する作業である。ネットワーク上だけではなく、重要な施設や部屋への入室時にも必要となる機能である。例えば、入口で、パスワードの入力や、ICカードを挿入して、解錠させる方法がある。

しかし、パスワードやICカードが他人に盗まれて、入室される場合も起こり得る。そこで、正当な利用者の身体的特徴を利用して認証するのが□□(1)□□認証である。個人を特定できる身体的特徴としては、指紋を利用する指紋認証、手のひらや指先の血管のパターンを利用する□□(2)□□認証、眼球の黒目に現れるしわを利用する□□(3)□□認証などがある。

(1) の解答群

- ア. タイムスタンプ
- イ. バイオメトリクス
- ウ. ベーシック
- エ. メッセージ

(2) , (3) の解答群

- ア. 顔
- イ. 虹彩
- ウ. 静脈
- エ. 声紋

<設問2> 次のネットワーク上の認証に関する記述中の□□□□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

ネットワーク上でも認証は重要になる。ユーザIDとパスワードによる認証が一般的であるが、盗用により、なりすましを受ける危険性がある。なりすましを防ぐ手法として、□□(4)□□, □□(5)□□, □□(6)□□, などがある。

□□(4)□□は、回線を一度切断し、サーバ側から正当な利用者に向けて再接続する手法である。

□□(5)□□は、利用者に配布されたパスワード生成器を使って認証のたびに異なるパスワードを使用する手法である。

□□(6)□□は、サーバから送られてくるランダムな数値とパスワードを一方向性関数に入力した結果を送信することで認証する手法である。

また、公開鍵暗号方式を利用した通信を行う場合、公開鍵が間違いなく本人のものであることを証明するために、CAが発行した□□(7)□□を利用して、送信者の正当性を認証する手法もある。

(4) , (5) の解答群

- ア. コールバック
- ウ. ハッシュ

- イ. サインアウト
- エ. ワンタイムパスワード

(6) , (7) の解答群

- ア. チャレンジレスポンス
- ウ. マトリックス

- イ. デジタル証明書
- エ. メッセージダイジェスト

問題を読みやすくするために、
このページは空白にしてあります。

問題 6 次の表計算ソフトの仕様を読み、各設問に答えよ。

この問題で使用する表計算ソフトの仕様は下記のとおりである。

ABS 関数

式の絶対値を返す。

書式：ABS(式)

AVERAGE 関数

範囲に含まれる数値の平均値を返す。

書式：AVERAGE(範囲)

INDEX 関数

範囲の中から行位置と列位置で指定したセルの値を返す。なお、行位置と列位置は 1 から始まる。

書式：INDEX(範囲, 行位置, 列位置)

MATCH 関数

検査範囲から検査値が存在するセルの相対的な位置を返す。位置は、1 から始まる相対的な値である。検査範囲は 1 行または 1 列であり、A1:B10 のように複数行または複数列での指定はできない。型は、0 の場合は検査値に完全に一致する値が検索され、1 の場合は検査値以下の最大の値が検索される。

書式：MATCH(検査値, 検査範囲, 型)

MIN 関数

範囲の中に含まれる数値の最小値を返す。

書式：MIN(範囲)

式

=に続いて計算式や関数などを入力する。

セル番地の絶対参照

セル番地に \$ を付けることで、絶対番地（絶対参照）を表す。

別シートの参照

ワークシート名に「！」を付けてセル位置を指定することにより別シートを参照できる。

例：シート名「集計」のセル A1 を参照する場合は、集計!A1 と記述する。

Jリーグの会場で飲食品の売店を出している A 社では、試合があった日の売上数を表計算ソフトで集計している。今年は、これまで 10 回の試合があり、図 1 のような

形で「販売数」ワークシートにまとめている。このデータをもとに、指数平滑法を用いて次回の販売予測を立てることにした。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
2	商品	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
2	ビール	618	867	773	668	613	791	940	782	881	806
3	烏龍茶	295	154	244	265	297	106	214	248	192	116
4	オレンジジュース	276	125	258	192	170	194	215	124	173	114
5	フランクフルト	373	458	224	345	276	254	310	442	418	183
6	ポテトチップ	74	76	125	65	81	134	99	118	124	67
7	枝豆	188	160	173	185	158	190	197	159	152	160
8	おにぎり	101	168	283	208	178	189	140	227	124	102
9	焼きそば	186	172	196	186	195	151	111	141	107	131
10	たこ焼き	147	258	207	292	244	208	253	192	125	251
11	から揚げ	118	175	241	173	264	210	247	215	230	144

図1 「販売数」ワークシート

[指数平滑法について]

指数平滑法とは、時系列のデータから将来値を予測する場合に使用される分析手法である。予測値は、平滑化係数 α を用いて、次の式で表される。

$$\begin{aligned} \text{予測値} &= \alpha \times \text{前回実績値} + (1 - \alpha) \times \text{前回予測値} \\ &= \alpha \times (\text{前回実績値} - \text{前回予測値}) + \text{前回予測値} \end{aligned}$$

なお、 $0 < \alpha < 1$ であり、平滑化係数が1に近づくほど最近の実績値が影響した値となる。

<設問1> 次の「予測」ワークシートの作成に関する記述中の に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

図1の「販売数」ワークシートのA列に入力されている商品から1つを指定し、その商品の販売数を引用して指数平滑法により予測値を計算する「予測」ワークシートを作成した。なお、セルC4~K14は、整数値のみを表示する設定にした。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	商品	たこ焼き	予測値								
2	位置	9	平滑化係数 α								
3	回数	販売数	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9
4	1	147	147	147	147	147	147	147	147	147	147
5	2	258	147	147	147	147	147	147	147	147	147
6	3	207	158	169	180	191	203	214	225	236	247
7	4	292	163	177	188	198	205	210	212	213	211
8	5	244	176	200	219	235	248	259	268	276	284
9	6	208	183	209	227	239	246	250	251	250	248
10	7	253	185	209	221	226	227	225	221	216	212
11	8	192	192	217	231	237	240	242	243	246	249
12	9	125	192	212	219	219	216	212	207	203	198
13	10	251	185	195	191	181	171	160	150	141	132
14	次回予測		192	206	209	209	211	215	221	229	239

図2 「予測」ワークシート

セル B1 は、「販売数」ワークシートのセル A2～A11 に入力されている内容からドロップダウンリストで入力するようにしたので、必ず「販売数」ワークシートに存在する商品が表示される。

セル B2 は、セル B1 の商品が「販売数」ワークシートのセル A2～A11 の何番目に位置しているかを表示するため、次の式を入力した。「販売数」ワークシートのセル A2 の商品であれば 1、セル A3 の商品であれば 2、…となるように表示する。

=

セル B4～B13 は、セル B1 に入力された商品の販売数を「販売数」ワークシートから引用する。セル B2 に表示されている値を利用して、セル B4 に次の式を入力し、セル B5～B13 まで複写した。

=

C 列～K 列は、指数平滑法により予測値を求めるための式を入力する。平滑化係数 α の違いによる予測値を検討するため、0.1 から 0.9 まで 0.1 刻みでセル C3～K3 に入力した。初回の予測値は、初回の実績値を使うため、セル C4 に次の式を入力し、セル D4～K4 に複写した。

=

セル C5 に予測値を計算するため次の式を入力し、セル D5～K5、およびセル C6～K14 に複写した。

=

(1) の解答群

- ア. MATCH(A2, 販売数!A2:A11, 0) イ. MATCH(B1, 販売数!A2:A11, 0)
ウ. MATCH(B2, 販売数!A2:A11, 0) エ. MATCH(B2, 販売数!B2:K11, 0)

(2) の解答群

- ア. INDEX(販売数!B2:K11, A2, A4) イ. INDEX(販売数!B2:K11, B2, A\$4)
ウ. INDEX(販売数!B\$2:K\$11, B2, A\$4) エ. INDEX(販売数!B\$2:K\$11, B\$2, A4)

(3) の解答群

- ア. B4 イ. B\$4 ウ. \$B4 エ. \$B4 + B4

(4) の解答群

- ア. C3 * (B4 - \$C\$4) + \$C\$4 イ. C3 * (B\$4 - \$C4) + \$C4
ウ. C\$3 * (B4 - C\$4) + C\$4 エ. C\$3 * (\$B4 - C4) + C4

<設問 2> 次の「絶対誤差」ワークシートの作成に関する記述中の に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

「予測」ワークシートで計算された次回予測の中で、どの値を採用するかを検討するため「絶対誤差」ワークシートを作成した。なお、セル B3~J12 は整数値のみを表示する設定に、セル B13~J13 は小数点以下第 1 位まで表示する設定にした。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1		平滑化係数 α								
2	回数	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9
3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	2	111	111	111	111	111	111	111	111	111
5	3	49	38	27	16	5	7	18	29	40
6	4	129	115	104	94	87	82	80	79	81
7	5	68	44	25	9	4	15	24	32	40
8	6	25	1	19	31	38	42	43	42	40
9	7	68	44	32	27	26	28	32	37	41
10	8	0	25	39	45	48	50	51	54	57
11	9	67	87	94	94	91	87	82	78	73
12	10	66	56	60	70	80	91	101	110	119
13	平均	58.3	52.2	51.0	49.6	49.1	51.3	54.3	57.2	60.1

図 3 「絶対誤差」ワークシート

セル B3~J12 に、「予測」ワークシートに入力された販売数と指数平滑法により計算された値の差の絶対値を表示する。つまり、セル B3 は「予測!B4」と「予測!C4」の差の絶対値であり、セル J12 は「予測!B13」と「予測!K13」の差の絶対値である。セル B3 に次の式を入力し、セル C3~J3、および、セル B4~J12 に複写した。

=

セル B13 は平均値を求めるため次の式を入力し、セル C13~J13 に複写した。
= AVERAGE(B3:B12)

(5) の解答群

- ア. ABS(予測!B\$4 - 予測!C4)
- イ. ABS(予測!B\$4 - 予測!C\$4)
- ウ. ABS(予測!\$B4 - 予測!C4)
- エ. ABS(予測!\$B4 - 予測!C\$4)

<設問 3> 次の「まとめ」ワークシートの作成に関する記述中の に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

「予測」ワークシート、および「絶対誤差」ワークシートに集計された結果をまとめた「まとめ」ワークシートを作成した。セル B1 は小数点以下第 1 位まで表示し、セル B4 は整数値のみ表示する設定にしている。

	A	B
1	平均の最低値	49.1
2	位置	5
3	平滑化係数 α	0.5
4	次回予測値	211

図4 「まとめ」ワークシート

セル B1 は、「絶対誤差」ワークシートに求めた平滑化係数 α ごとの平均値の中から最も小さい値を表示するため、次の式を入力した。

$$= \text{MIN}(\text{絶対誤差!B13:J13})$$

セル B2 は、セル B1 の値が、絶対誤差ワークシートのセル B13～J13 の中で何番目に位置するかを表示するため、次の式を入力した。セル B13 であれば 1、セル C13 であれば 2、…、となるように表示する。

$$= \text{MATCH}(B1, \text{絶対誤差!B13:J13}, 0)$$

セル B3 は、セル B1 に表示された値に対する平滑化係数 α を表示するため、セル B2 の値を利用して次の式を入力した。

$$= \text{INDEX}(\text{絶対誤差!B13:J13}, B2, 1)$$

セル B4 は、セル B3 に表示された平滑化係数 α の値に対する次回予測を「予測」ワークシートから参照して表示するため、セル B2 の値を利用して次の式を入力した。

$$= \text{INDEX}(\text{予測!B4:B13}, B2, 1)$$

(6) の解答群

- ア. MATCH(B1, 絶対誤差!B2:J2, 0)
- イ. MATCH(B1, 絶対誤差!B13:J13, 0)
- ウ. MATCH(B2, 絶対誤差!B2:J2, 0)
- エ. MATCH(B2, 絶対誤差!B13:J13, 0)

(7) の解答群

- ア. INDEX(絶対誤差!B2:J2, 1, B1)
- イ. INDEX(絶対誤差!B13:J13, 1, B1)
- ウ. INDEX(絶対誤差!B2:J2, 1, B2)
- エ. INDEX(絶対誤差!B13:J13, 1, B2)

(8) の解答群

- ア. INDEX(予測!B4:B13, B1, 1)
- イ. INDEX(予測!B4:B13, B2, 1)
- ウ. INDEX(予測!C14:K14, 1, B1)
- エ. INDEX(予測!C14:K14, 1, B2)

<メモ欄>

<メモ欄>

